

西太平洋に展開する米空軍基地



アメリカの戦争と横田基地

軍事情報アナリスト 小柴 康男



小柴さん

10月10日に開催された第11回横田基地もいらない！沖繩とともに声をあげよう市民交流集会での小柴康男さん（軍事情報アナリスト）の講演から、横田基地の新たな役割についての報告を紹介します。小柴さんは米国会議

すべての飛行機が勢ぞろい

声をあげなければ危険

作成の文書などを調査し、米国の軍事戦略を読み解いていきます。講演の前段で、米国が世界中で戦争を続ける理由には、軍産複合体が国家と国民を誘導しているメカニズムがあると述べました。（見出し・文責とも編集部）

米空軍は小規模な部隊を繰り返し移動させながら、急に集まって戦力を形成して攻撃に移るといったような構想を機動的戦闘活動と呼んでいます。横田を含めて、西太平洋に空軍の基地は6カ所あり、航空機を行ったり来たりさせる。離発着回数は圧倒的に多くなります。今多くなっている

理由としてよく挙げられるのは、オスプレイが5機配備された、C-130という輸送機が新しいJというタイプに代わって、そのための訓練が激しくなると言われています。横田に頻りに来るようになるからだと思います。

司令部というのは名前だけで、会社でいうと庶務課、軍人の身の回りのことに関するいろんな差配をするというぐらいいで、大事な指令はハワイから来ています。横田とハワイの間は通信衛星、あるいは長距離の海底ケーブルを使います。ところが中国が相手にすると、そういう通信網が危ないわけです。つまり海底ケーブルを切られたり、通信衛星を落とされたりした場合、横田にいる在日米軍の司令官は、何の連絡も取れない残存部隊になっちゃいます。横田からいろんな命令を出すことも出来ない。それでAOCという作戦センターを横田に置くのではないかと、去年、報道されています。これは米軍の戦略を委託されて研究し、米軍に報告書を出しているランド研究所の最新の報告書の中に、指揮系統の細分化分散化として、横田にもそういうシステムを置くのではないかと入っています。

戦闘機の出撃拠点に

攻撃に対する訓練も想定

今、米軍はハワイにあるインド太平洋軍が在日米軍を仕切っています。だから横田の

そして恐ろしいことに、横田は固有の輸送部隊の基地という形から、大きく変わる可能性があります。今後の状況次第で出てくると思います。というのは

このランド研究所の報告書の中に戦闘機を順番に分散して配備する場合に、この極東にあるグアムを含めた6カ所の基地が候補だと書いてあります。

米国の戦争で基地が変化

列島は軍事要塞に

結局日本の役割は米軍にとって何なのかといった場合、中距離ミサイルを打つ陣地なのです。そこに住んでいる人間を想定したら戦争なんかできない。イージスアショアなどはどうでしょう。日本列島の周囲に50カ所も原発があるではないですか。この原発一基でもやられたら、福島の場合ではないけれども、どうなるのか。中曽根首相のころは不沈空母という話がよく出ま

台場みたいなものです。敵が攻めてきたら小さな島でいろんな戦力を集めて迎え撃つ。日本列島そのものがお台場みたいな軍事要塞の役割を担わされているのではないかと。こういうことはほたいたいメディアも伝えない。日本の予算を使って中距離ミサイルを買わせるということは、すでにアメリカが日本の防衛予算のなかに手突っ込んできている、つまり米軍のために日本が兆円分の防衛費を使

ついているという話になります。そしてアメリカの代理人という役割が、年々強くなっているような気がします。横田基地の変化というのは一貫性があるわけではない。何で横田が戦後、姿を変えてきたかという、アメリカのその都度の戦争に最適な状態が変わってきているだけではない。つまり朝鮮戦争のときは爆撃機の出撃拠点、そしてベトナム戦争のときはF104の基地、ベトナム戦争が終わ

ると輸送機の拠点になった。2000年以降では、アメリカは世界各地で対テロ戦争という名前の特殊部隊を主役にした戦争を始め、横田にもオスプレイと特殊部隊が来る。今、米軍の死者の4割は特殊部隊員です。陸軍でも海軍でもない、実際、死んでいるのは横田にいるような特殊部隊の兵士です。この兵士の総数は全米の軍人のたった3%くらいです。それが傷ついている人間の4割を占めている。この特殊部隊がいかに過酷な戦線で働かされているかという話です。そして今後は戦闘機が横田に来てもおかしくない状態になっている。

もう一つは爆撃機というものにはある意味で軍事力の象徴です。戦闘機は実際の戦闘に使いますが、爆撃機というのは圧倒的な優位のもとに上から爆弾を落とす飛行機ですから、軍事力の象徴、戦力の象徴として、グアムに置いておくというのが、意味があったわけですね。それは日本とか韓国とかアメリカに頼っている国々に対して、見捨ててないぞ、安心しろという一つのメッセージを与えている、そういう意味がありました。ところが今年の4月、グアムに置いておくと危ない、戦

今後空軍の基地を3つのパターンに分けようというのです。一つ目が、滞在戦闘基地、2番目が短期立ち寄り基地、3番目が前線武装給油拠点です。滞在戦闘基地というのは、戦闘機部隊が飛んできて、約1カ月間、戦闘機の基地にしてしまっわけです。そのためにC17という輸送機を使うと書いてあります。必要な機材、あるいは人員、例えば横田みたいな大きい基地の場合、戦闘機部隊を配備する時には1200人の

横田の整備員も輸送機専門ではなくて戦闘機も整備できる能力を獲得しておくトレーニングが必要だ、非常に攻撃を受ける可能性が強いので、地下施設を作ったり、シェルターをいっぱい作れと書いてあります。



横田基地に着陸するC130輸送機 (yokotajoho 提供)

サポーター要員を空輸してくる、つまり一時的な戦闘機の出撃拠点になるわけです。そしてこの主要な基地というのは米軍の想定でいうと敵からさんざん攻撃されるだろう。要するに横田が主要基地になれば、例えば中国のミサイルが100発、密集攻撃でいっぺんに飛んでくる。それで横田はめちゃくちゃになる。その時どうするか。一機の飛行機の間隔を空けておくとか、給油施設も車に積んだら分散して置いておくとか細かい指示が書いてあります。

中国のけん制目的に

日本に爆撃機配備

米軍の爆撃機というのはベトナム戦争のときはB52という4発の大きい飛行機があり、そのあとB1とかB2とか三角翼の飛行機、これがグ

アムのアンダーセン基地にずっと置いてあった。なぜグアムに置いてあったか。これは一つには中国をならんでいる。何かあったら、迅速に攻

撃態勢に移れるように、米本土よりグアム島の方が近いです。もう一つは爆撃機というものにはある意味で軍事力の象徴です。戦闘機は実際の戦闘に使いますが、爆撃機というのは圧倒的な優位のもとに上から爆弾を落とす飛行機ですから、軍事力の象徴、戦力の象徴として、グアムに置いておくというのが、意味があったわけですね。それは日本とか韓国とかアメリカに頼っている国々に対して、見捨ててないぞ、安心しろという一つのメッセージを与えている、そういう意味がありました。ところが今年の4月、グアムに置いておくと危ない、戦

機もオスプレイもあと5機来ますが、全ての飛行機が横田に勢ぞろいする状況になります。我々が声をあげないと横田はどんどん怪しい方向に行ってしまうのではないかと